

第48回「議員と語ろかい」報告書

地域テーマ型 2班(No.1)

開催日	令和7年1月23日(木曜日) 19時00分 ~ 20時30分		
開催場所	隼人公民館		
団体名	個人参加(隼人地区)	参加 人員	13人 (男 7人:女 6人)
出席議員	宮内 博、徳田 修和、宮田 竜二、松枝 正浩、藤田 直仁、竹下 智行、久木田 大和 傍聴(植山 太介)		
役割分担	班長(徳田 修和)、副班長(松枝 正浩)、記録係(竹下 智行)		
テーマ及び 具体的な内容	どうする伝統・文化の継承 グループ分けはせず、口の字形式で参加者全員と意見交換を行った。		

意見交換での主な意見等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	<初午祭、浜下り> ◆初午祭が2月16日に開催されるが、昭和30年代には馬が50頭いたらしい。現在の実行委員長を引き継いだ時には22頭いたが、今回は16頭になった。踊り手が少なくなっている。 交通規制が厳しく、16時で終わるので、露天商も16時で終了するために観客も減る。 ◆鹿児島神宮の浜下りも交通規制が厳しい。人集めが大変になっている。 ◇小学校やこども園の子ども達が参加できるような工夫をしたら、もっと盛り上がるのではないかな。 ◇駐車場の確保が大切だと思うが、どうなっているのか。 ◆県内でも色々な祭りがあると思うが、初午祭は一番駐車禁止区域が広いのではないかな。 ◆初午祭は以前、1月18日旧暦に開催されていた。平日に開催されることもあったが、宮内小学校、富隈小学校は休みだったと聞いたことがある。宮内小学校では地元の行事の学習授業がある。教育委員会も関心をもってもらい、子どもの頃から地域伝統行事を学習できればと思う。 ◇伝統行事を担っている人達も段々、体力が落ちてくる。若い人に段取りも含めて継承していくべきだと思う。 ◆馬主だが、鞍を乗せて帯を結ぶのも父や知っている人がいないとできない。現在飼育しているポニーがいなくなったらもう飼わない。牛の飼育と一緒にポニーの飼育をしているので、市からの補助金で足りている。 ◇馬主さんを支えていくために、補助金を継続し金額の増額はできないか検討していく。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

<宮内研究会>

◆史跡が大事にされているのか。「観光」の本来の意味は、国の光を見ることである。文化が観光そのものである。しかし、今の観光はインスタ映えや美味しいものを食べに行く、遊びに行けるところ等に主眼が置かれ、文化に対する国民の意識が変わってきた。

◆地元の歴史を知らない人が増えてきた。今では7割ぐらいは市外から来て住んでいる。史跡が散逸し住宅地になり、無くなってしまうところもある。

◆住所から字(あざ)が消えたことにより、地域の由来の意味が分からなくなってきた。田んぼも宮内原という一つの地名に一括された。残していかないと、歴史が失われてしまう。

◆活動内容は史跡巡り歴史講話をしている。昨年は宮内歴史散歩という冊子を発行した。市民活動支援事業を使って小冊子は発行したが、3年しか使えない。会員から年2,000円の会費を取っているが活動は難しい。

◆市も歴史、文化に力を入れてほしい。

◇字(あざ)の資料は貴重であるので、残してもらいたい。地域で伝えていく活動をしてもらっているのはありがたい。地域活動支援事業は3年経ったら自立を目指していると思うが、文化を守っていくためにどうことができるか検討したい。

◆川尻琉球人踊り(400年以上前からの琉球との交流からできた踊り)毎年、川尻自治公民館で初舞をし、浜下りでも踊っている、踊り手が総勢30名、最近幼稚園の運動会で踊っていたが今はない。琉球踊りは女性だけ。最近後継者がいなくて継承が大変である。子どもが来ると親が来て盛り上がる。自治会から145,000円、民芸保存会62,000円の補助がある。法被、小物も必要なので活動費が必要。長年続いたものを絶やしたくない。

◇子どもも生活のリズムが変わってきている。習い事などで参加できなくなっている。子ども会でもLINEで行事案内がくるようになった。子ども会等、SNSを活用し広報していくのもいいのではないか。

◇伝統文化の継承については、さつま町の中津川は益金活動している。祭りののぼり旗を5,000円か6,000円ぐらいで、個人の名前を書いたものを作る取組をしているところがある。孫が生まれた時に作る等、効果が出て盛り上がっている地域もある。

◆霧島市民芸保存会は29団体。7割～8割は消滅寸前。後継者不足、資金不足である。地域の伝統をどう守るか。社会教育課所管だが、助言をもらえない。具体的な助言がほしい。

◇対応について社会教育課とも話をしたい。

◇資金については、ふるさと納税を活用してもよいのではないか。ふるさと納税は観光や文化芸能等、寄付する内容を指定できる。努力して財政を増やしていかないといけない。今後、県内の事例も提供できるようにしたい。

◆担当部署の職員がそっくり変わってしまう。職員の継承が大事。誰か知っている人を一人でも残してもらいたい。窓口になってもらえる議員や職員がいてもらいたい。

意見交換での
主な意見等

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換での主な意見等

- ◆文化協会員が減少している。文化祭の演目も少なくなっているの、宮内研究会の講演等も入れてみたらどうか。
- ◆宮内歴史散歩の冊子をコピーして本庁に掲示してもらえないかお願いしたが、特定の団体だけ優遇することはできないと断られた。隼人市民サービスセンターには掲示してもらっている。
- ◇霧島市には学芸員がいるが、専門的な人材の確保を行うべきである。市の職員に関しても専門性を持った人が必要ではないか。
- ◇始良市は三町まとめた郷土史ができています。霧島市はできていない。霧島市も郷土史をまとめていくべきである。

- ◆今後、隼人駅東口が賑わってくる。自由通路の西口を神宮口との案がある。鹿児島神宮口にできないか。また、鹿児島神宮駅にできないか。
- ◇この機会に隼人駅の開発や自由通路ができるタイミングなので、名称を市民の方にアンケート等を通して聴いてみるのもいいのではないかと。

- ◆芸術祭は例年2月に開催している。会場としていた国分ハウジングホールが令和8年1月から令和9年3月まで改修工事に入る。令和7年度は2月に使用できなくなる。みそめ館、農村改善センターは設備が不十分で満足に使えない。国分ハウジングホールの指定管理者に出張できないかと相談したが、リハーサル、仕込みと本番を入れて2日間に短縮したとしても最低25万円はかかると言われた。また、担当課からは補助金内で賄ってほしいと言われた。文化協会は費用を出すだけの余力はないので市と交渉してほしい。
- ◇ご意見は市に繋いでいく。

- その他
議員と語り合い終了後にいただいた意見

- ◆参加者と繋がる機会がもてたらありがたい。
- ◆伝統行事の保存は、学校の「家庭教育学級」や「探求の時間」で取り組んだらどうか。
- ◆今回の語り合いは、地域の横のつながりが出来ると互いの課題補完や共有、協力にもつながっていくと思う。霧島神楽保存会も後継者を含め、大変である。気軽に入ってほしい気持ちもあるが、一方で神楽は神社に奉納をする神聖なものでもあるので、運営側でも意識が異なっている部分もあり難しい。

- ◆隼人民俗資料館の係の方は、シルバー人材センターから派遣されることもあり、必ずしも歴史に精通していない担当者もいる。
- ◆歴史、文化の継承、町づくりは、ビジョン(目指すべき形)が大切なような気がした。それぞれが思い描く町づくりがバラバラだと収集がつかない気がした。
- ◆伝統、文化の継承がスムーズにいかないのはそれぞれ原因があると思う。原因分析も必要ではないか。

